

監修：進士五十八（東京農業大学名誉教授）

二子玉川公園日本庭園検討部会

作庭、設計施工監理：高崎康隆

設計：株式会社 戸田芳樹風景計画

施工：石勝・緑進建設共同企業体

園名揮毫：小田川大岳（毎日書道展審査会員、一韻会 会長）

担当：世田谷区生活拠点整備担当部二子玉川施設整備課

進士五十八
園真帰



世田谷区

● 世田谷の自然と文化の拠点

二子玉川は、東京の西の玄関として、地域の個性を活かした“にぎわいの拠点”を目指し商業・業務・文化の高質化を図っている地域です。また、国分寺崖線の「みどり」や多摩川の「みず」など区内でも数少ない自然景観を残す景勝地です。この地は、歴史的に江戸期の社寺、明治・大正期の政財界人の別荘、昭和期の遊園地など、東京のリゾート地として発展し、多様な文化を育んできました。

帰真園は、二子玉川公園の中核施設として、これら豊かな自然と文化を踏まえ、市民の環境福祉、子どもたちの文化教育にも役立つよう作庭された世田谷区立初の周遊式日本庭園です。



● 世田谷区立二子玉川公園内、帰真園 案内

開園年月日：平成25年（2013年）4月14日

開園面積：約5,800㎡（約1760坪）

所在地：世田谷区玉川一丁目16番1号 二子玉川公園内

作庭家：高崎康隆（設計業務：株式会社戸田芳樹風景計画）

開園時間：午前9時～午後5時（3月から10月）

午前9時～午後4時30分（11月から2月）

休園日：毎週火曜日、及び年末年始

入園料：無料

旧清水邸書院開館日時：毎週日曜日 午前9時～午後4時30分（3月から10月）

午前9時～午後4時（11月から2月）

お問い合わせ先：二子玉川公園ビジターセンター ☎03-3700-2735

玉川公園管理事務所 ☎03-3704-4972

● 帰真園のねらい、考え方 監修者 進士五十八

（日本庭園研究で紫綬褒章受章）

日本庭園では、庭園の理想や目標を園名で表します。「帰真園」に込めた心、それは英語のリターン・トゥ・ネイチャー。自然に帰る。真の姿、例えば日本文化の原点を学ぼう、ということです。

雅称、玉川、奥多摩の水源林から河口六郷川まで多摩川の延長は、138キロにも及ぶ。世田谷の学校の校歌には清流多摩川、緑濃き武蔵野、富士の高嶺、そして豊かな四季が詠まれています。帰真園は、これら素晴らしい自然に感謝し環境を保全し、自然と共生してゆく美しい世田谷を象徴する現代の日本庭園です。

子どもも高齢者もみんなが花や水とふれあえるユニバーサルガーデン、日本文化、世田谷らしさを体験的に学べる場、国際交流の場ともなる文化的空間づくりを目指しました。

みなさんと協働して、21世紀の名園に育ててください。

● 帰真園の楽しみ

作庭家 高崎康隆

（日本造園学会賞受賞作家）

朝は時雨亭から、逆光を受けた水面のきらめきを。昼間は旧清水邸書院から、多摩川の水景の奥行きを。日没前には河岸から、小富士と富士見台を。梅雨には、苔の緑と雨に濡れて美しい庭石を。強風の日には、水面に広がる漣模様の変化を。一人でゆっくりと歩いて、二人で語り、介護の散歩で風に香りを聞き、子どもと水音に耳を傾け、苔にそっと手のひらを当て、好きな石を見つけて触れてみる。多摩川と富士山と国分寺崖線を主題にした日本庭園で、少しでも長く過ごして、気持ちが軽くなって頂けることを願っています。



● 帰真園の構成、周遊路

帰真園は、多摩川の源流から当地までをテーマとした縮景庭園です。山から海までの流れ、地形に沿った園路、園外の小富士や富士見台などの眺望を楽しめます。

「水の景」：多摩の水干（みずひ）、鳩ノ巣、崖線（ハケ）の水、八筋滝（やすじのたき）、鼓洲（つづみのしま）、河岸、川辺

「緑の景」：奥多摩の森、紅葉林、椎木、苔庭、花筵（はなむしろ）、竹林

「路（みち）の景」：おもいはせの道、大山道、筏道（いかだみち）、六郷道、それに二子坂、二十坂（はたちざか）

この他にも、作庭家こだわりの露地庭、万人席（ばんにんせき）、時雨亭（しぐれてい）、相生橋（あいおいばし）のモダンデザインも楽しんで下さい。

主建築の旧清水邸書院は、純和風の文化財で、日本建築の特色である床の間や畳敷き、外の庭園とつながる縁、杢ぬき石を理解し、お茶やお花など日本文化を体験できます。

なお、本邸は、かつて世田谷区瀬田にあった清水組の副社長宅の古材を生かして、清水建設株式会社が社会貢献として、設計施工監理事業の一切を区に提供いただいたものです。

旧清水邸書院



万人のため、ユニバーサルデザイン

帰真園の園路幅と斜路は、誰もが歩きやすいように整備されています。園路沿いには香りのよい草花が点在し、車いすを利用したまま色とりどりの草花に触れられる花壇「万人花筵（ばんにんはなむしろ）」や、誰もが利用できる露地「万人席（ばんにんせき）」、水に触れることができる石組み、階段脇の手触り石などがあります。

また、園内中央に位置する「相生橋（あいおいばし）」は、男と女、人間と自然など互いが支えあう共生の思いを込めて名づけられました。

崖線の水と緑

帰真園は、常緑樹と落葉広葉樹が錦織りなす国分寺崖線の風景を象徴します。地表では、草花の四季折々の変化を楽しむことができます。

ユニークな傘形をした「時雨亭（しぐれてい）」は雨の恵みを象徴しており、森に降った雨は「崖線の水（はけ）」として再び地表に姿を現します。崖線地形における水の循環、多摩地域の自然環境の大切さをご理解下さい。



日本庭園の伝統技術

帰真園には世界に誇る日本の伝統技術が活かされています。

いろいろな竹垣や旧清水邸書院を守るシラカシの高垣、土塁の築造など。約1200トンの石材は、伊豆や北関東など各地から集められ、京の庭とはひと味違った雰囲気をかもしだしています。作庭家独自の石組みやデザインを味わってください。

文化財の保存や歴史の継承

区登録文化財の旧清水邸書院の再生はもとより、地域資源の有効活用と歴史文化の継承を目指しました。

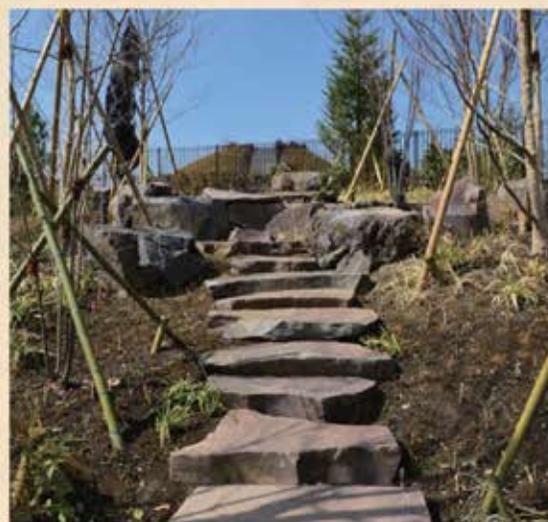
帰真園の池底にはこの地で採取された玉川砂利を用い、往時の多摩川風景の再現を図っています。二子玉川の地に縁ある若山牧水の歌『多摩川の砂にたんぼほ咲くころは、われにもおもふひとのあれかし』から、池に浮かぶ島を「鼓洲（つづみのしま）」と名付けました。『鼓草』はタンポポの古名です。

また、池泉に浮かぶ西ノ屋型灯籠（にしのやがたとうろう）や、園内に点在する景石のいくつかは、区内の五島美術館から寄贈されたものです。

多摩川の清流

園内の水景は多摩川の源流である笠取山の「水千（みずひ）」から始まり、急峻な流れを模した「鳩ノ巣（はとのす）渓谷」を流れ、幾筋もの流れが乱れ落ちる「八筋滝（やすじのたき）」を経て、「多摩川」へと辿り着きます。

昔、多摩川を使って奥多摩の木材を運びました。筏道（いかだみち）はその名残で、今も多摩川に沿って、かつての古道を散策することができます。



富士山を望む

庭園西側に位置する小高い山は、富士山を眺めるための「富士見台（ふじみだい）」です。

富士山は古くから日本の象徴であり、江戸時代に多摩川流域の風景を描いた武陽玉川八景之図には中央に富士山を模した玉川富士も描かれています。帰真園では「小富士（こふじ）」がそれに当たります。登山道の「二子坂（ふたごさか）」を経て、富士見台に登れば眼下に多摩川、本当の富士山が遠望できます。



世田谷の文化と味わい

区内には美しい風景とそれらにまつわるいくつもの文化が積層されています。

「おもいはせの道」や「大山道」、「筏道」、「六郷道」はみな世田谷由来です。

武陽玉川八景之図の「二子帰帆」から名付けられた「二子帰帆河岸（ふたこのきはながし）」は、広がりある園内を見晴らす、パノラマ景の視点場です。